

高校生のスポーツ参加へのモチベーション -オリンピック前後での変化に注目して-

角川 勝己 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 狩野 孝之

キーワード：オリンピック，意識，スポーツ参加，高校生

1. 緒言

今回は高校生を対象に、現在のスポーツ参加への状況と、オリンピックが開催された後のスポーツ参加に対する意識の変化に興味を持った。スポーツが苦手と感じる人もボランティアなどでスポーツにかかわっていきこうと思うようになったのか、またスポーツを行っているものと、行っていないものとの、スポーツに対する意識はどのように違うのか、さらに、リオオリンピックを通して東京オリンピックに対する意識などの変化があったのかを見ていきたいと思った。

2. 研究方法

調査対象滋賀県 T 高校のクラス生徒 45 名を対象とするアンケート調査を行い、その結果をまとめた。

3. 結果と考察

今回の調査で、2020 年に行われる東京オリンピックには現地まで行きたいか、という質問を行うと、現地まで行きたいという生徒は 4 人 (9%) にすぎず、テレビで見ると回答した生徒が 36 人 (80%)、中には見ない、興味ないと回答する生徒も 5 人 (11%) おり、現地で見たいという生徒を超える結果となった。テレビで見る理由としては、会場が遠いという理由が多数であった。一生に一度見られるかどうかのオリンピックというイベントではあるが、東京という会場は遠いと考える生徒がいるよう

だ。次にお金がかかるという理由も上がった。また、今後スポーツに関わるボランティアを行いたいかという質問に対しては、45 人中 35 人 (78%) の生徒が行いたくないと回答した。

現代の体力の二極化、スポーツ離れ、これらを改善するためには、東京五輪というイベントは今後に大きく関わってくると考えられるが、オリンピック自体に興味を持ち、ボランティアなどの参加意欲を持つ人が増えるようなさらなる取り組みが課題である。

4. まとめ

今回の調査対象はある高校のひとクラスだけであり、高校生の多くがこのように感じているとは限らない。しかし、今回の調査からは、オリンピックなどの一時的な大イベントだけでは、スポーツへの積極的な参加のモチベーションを上げたり、それを維持したりすることは難しく、その他に身近で持続的な取り組みが必要なのではないかということが感じられた。

5. 参考文献

桂 玲子 (2014 年) 「2020 年東京オリンピック・パラリンピック」開催についての意識調査：本学学生の課題を探り、講義の在り方を検討する 北海道武蔵女子短期大学紀要 46, p 85-97